

16.「紫苑」の目標果房重生産のための整房時の適正な穂軸長

[要約]

「紫苑」の生産目標である600～800 gの果房を生産するには、整房時の穂軸長を5～7 cmに調整する。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話086-955-0276

[分類] 情報

[背景・ねらい]

「紫苑」は、果房重の生産目標が600～800 gであるものの、現地ではこれよりも大房になっている事例が散見され、出荷時のつぶれ等の原因となる。大房になる原因として、整房時の穂軸長が長いことが考えられるため、整房時の穂軸長と収穫時の房の大きさとの関係を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 果房重は、果粒重が18 g前後であると、整房時の穂軸長が5～7 cmでは生産目標範囲内の620～780 gとなるが、9 cmでは900 g以上と大きく上回る（図1、表1）。
2. 果房径は、縦径及び横径ともに整房時の穂軸長が5 cmの場合に最も小さく、次いで7 cm、9 cmの順である（表1）。
3. 果粒重、糖度、果皮色及び酸含量は、整房時の穂軸長によって大差はない（表1）。
4. 房しまり及び肩の巻きの程度についても、整房時の穂軸長が5～9 cmで同等である（表2）。
5. 収穫時の穂軸長と果房重との間には高い正の相関が認められ、目標果房重が600～800 gの果房の穂軸長は、果粒重が18 g以下では6～7 cm、果粒重が18 g以上では5～6 cmである（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験では、花穂整形は満開8日前に花穂先端約5 cmを残して、他の支梗をすべて切除し、その後、満開7日後の整房時に穂軸長を調整している。
2. 花穂の上部を用いて房づくりするほど、果房の横径が大きくなりやすいため、整房時にはできるだけ花穂上部の支梗を切除することで穂軸長を調整する。
3. 肩の支梗の切除が遅くなると、肩の巻きが悪くなるため、穂軸長の決定は結実が分かり次第、速やかに行う。
4. 果粒重が18 gを超えるような果粒肥大の良好な樹では、整房時の穂軸長を5～6 cmに調整する。
5. 花穂先端部は満開10日後程度まで伸びるため、穂軸長の決定を早く行う場合には、その後の花穂の伸長を考慮して、やや短めとする。

[具体的データ]



図1 整房時の穂軸長が「紫苑」の外観品質に及ぼす影響

表1 整房時の穂軸長が「紫苑」の果実品質に及ぼす影響

処理区	果房重 (g)	果房径(cm)		果粒重 (g)	糖度 (° Brix)	果皮色 (C.C.)	酸含量 (g/100ml)
		縦径	横径				
5cm	615 c	14.3 c	12.1 b	17.3	18.6	4.8	0.49
7cm	782 b	16.5 b	13.0 ab	17.9	18.3	4.8	0.50
9cm	952 a	18.2 a	13.5 a	17.6	18.3	4.8	0.46
有意性 ^z	**	**	**	ns	ns	ns	-

^zTukey法により**は1%水準で有意差あり、nsは5%水準で有意差なし

表2 整房時の穂軸長が「紫苑」の房形に及ぼす影響

処理区	房しまり ^z		肩の巻き ^z	
	程度	程度3の割合(%)	程度	程度3の割合(%)
5cm	2.9	85	2.4	45
7cm	2.8	80	2.4	45
9cm	2.9	90	2.5	55

^z房しまり及び肩の巻きの程度は1:不良、2:中、3:良好として区分

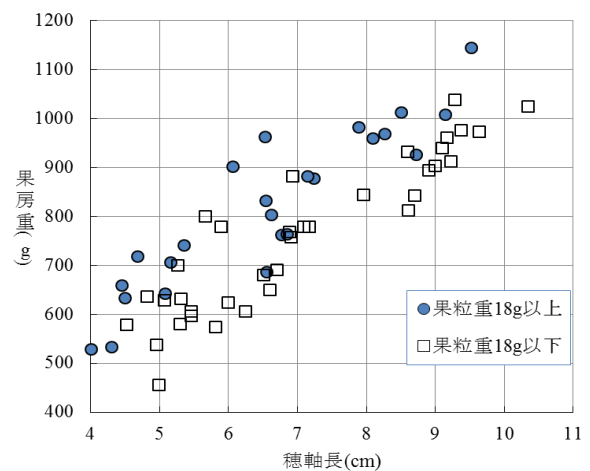


図2 「紫苑」の収穫時の穂軸長と果房重との関係
(3処理区の全供試果房の実測値)

[その他]

研究課題名：「紫苑」の果房管理技術の確立

予算区分：県単（現地緊急）

研究期間：2015年度

研究担当者：中島 譲、安井淑彦、平井一史

関連情報等：1）岡山県果樹栽培指針（2014）

2）紫苑栽培の手引き（2011）